

授業概要

幼稚園・保育所などの保育現場で子どもを育む「保育者」の在り方を学ぶ授業である。保育者の意義、歴史や法制度上の位置づけ、こども理解、保育観などを講義する。この学習で、保育者としての専門性や「保育力」を高める基礎的資質を培ってほしい。なお、「保育力」とは、こども理解力、援助力、環境構成力、協働性、人格など保育現場で求められる保育者の総合的な資質・能力のことをいう。

授業計画

| | |
|--------|----------------|
| 第 1 回 | オリエンテーション |
| 第 2 回 | 保育者の意義と魅力的な保育者 |
| 第 3 回 | 保育者の一日 |
| 第 4 回 | 保育者の歴史 |
| 第 5 回 | 保育者と法制度・法的根拠 |
| 第 6 回 | 保育者のこども理解とこども観 |
| 第 7 回 | 子どもの心と体を動かす保育者 |
| 第 8 回 | 子どもと豊かに生活する保育者 |
| 第 9 回 | 保育者と絵本 |
| 第 10 回 | 保護者支援 |
| 第 11 回 | 地域と共に歩む保育者 |
| 第 12 回 | 保育者の同僚性と研修 |
| 第 13 回 | 保育者の省察と葛藤 |
| 第 14 回 | 保育者の専門性 |
| 第 15 回 | 学習のまとめ |
| 第 16 回 | 筆記試験 |

到達目標

1. 保育者の職務やその専門性について理解し、説明している（知識・理解）。
2. 保育に関する法令・制度の要点をまとめながら、小論文や口頭で表現している（思考・表現）。
3. 保育者の職務やその専門性に関するグループ討議や発表に進んで参加しようとする（意欲・態度）。

履修上の注意

単位修得のためには、最低 10 回の出席（この場合、無遅刻・無早退であること）が不可欠となる。授業では、グループ協議・発表等を重視する。筆記試験（第 16 回目）は、「小論文」形式で出題する。

予習・復習

授業内容の深い理解、予習・復習のため授業時間外に「課題」を作成し提出する。

評価方法

学期末試験 70%、授業中に課す簡単な課題への回答 10%、レポート 10%、受講態度 10%

テキスト

テキストは使用せず、毎回の講義で必要な資料を配布する。次の参考書も活用してほしい。
『最新保育講座 2 保育者論』（汐見稔幸・大豆生田啓友編）・ミネルヴァ書房